

中学校理科教員向け工場見学会を実施

<プラスチック教育連絡会>

日本プラスチック工業連盟

事務局長 岸村 小太郎

塩ビ工業・環境協会、日本化学工業協会、プラスチック循環利用協会、日本プラスチック工業連盟の4団体は、2012年度から中学校1年生の理科で「プラスチック授業」が必須になったことを受け、教師や生徒たちにプラスチックを正しく理解してもらおうと「プラスチック教育連絡会」を立上げ、様々な教育支援活動を企画・実行していますが、このたび連絡会としては初めての試みである、中学校理科教員向け工場見学会を7月30日（水）に実施しました。

本企画は、本年1月に東京都中学校理科教育研究会の観察・実験委員長である品川区立八潮学園校長（当時は、品川区立品川学園副校長）の山口晃弘先生と意見交換を行った際に、「生徒にプラスチックのことを教える先生たちが、身の回りのプラスチック製品やその原料がどのように作られているか全く知らない」というお話があり、「では、工場見学会を企画しよう！」と、日本化学工業協会広報部が中心となって準備を進め、プラスチック原料の製造現場として旭化成ケミカルズ(株)川崎製造所を、プラスチック製品の製造現場として東洋製罐(株)横浜工場を見学させて頂くことになったものです。

中学の先生にとっては夏休み中でもあり、当初はどれだけの人数が集まるか不安でしたが、募集定員一杯の25名の先生が参加してくれました。

当日は、午前9時に品川駅前に集合し、そこから中型バスで旭化成ケミカルズ(株)川崎製造所に向かいました。

旭化成ケミカルズ(株)川崎製造所では、一般見学コースで石油化学工場の仕組みや同製造所で作っている製品（ポリスチレン、アクリル樹脂等々）についての説明を受けた後、合成ゴム製造プラントに入り、自動的に裁断されたベールをベルトコンベアーで次工程へ送り、異物をチェック・除去するプロセス等を見学しました。

午後は東洋製罐(株)横浜工場に移動し、PETボトルや飲料缶の製造工程を見学しました。プリフォーム（ボトルにする前の試験管状の成型品）が瞬時にPETボトルに姿を変える工程に、皆さん釘付けになっていました。見学者用に用意されたプリフォームとPETボトルを交互に電子天秤に乗せ、同じ重量であることを繰返

し確認する姿は、さすがに理科教師でした。また、飲料用のスチール缶にもラミネート鋼板としてプラスチックが使用されていることは新鮮な発見だったようです。

帰りの車内では、「生徒たちにも見せたい」、「授業に使うためのサンプルが欲しい」等の会話が交わされていました。今後、見学会に参加された先生方のご意見や感想を参考にし、次なる教育支援策を企画していきたいと思えます。